**第 13 回　韓日学生シンポジウム　(The 13th Korea-Japan Students' symposium )**

11 月 7 日～9 日の 3 日間，ソウル市内のソウル国立大学で第 13 回韓日学生シンポジウムが開催された。東北大学，ソウル国立大学など多数の研究・教育機関から多くの教育者・研究者・大学院生・大学学部生が参加した。参加者の総数は，およそ 70 名(うち外国人 40 名・4 カ国)であった。

本シンポジウムは、東北大学の水崎研究室とソウル大学の Yoo 研究室間での研究交流がきっかけで、2000 年 4 月から毎年開催している。このシンポジウムの特徴は、"Symposium of the students, by the students, for the students"というスローガンの下，学生主導で企画･運営を行うことである。今年は、50 名を超える学生が参加し、主体的に議論を行う姿が見受けられた。また、日本側，韓国側の参加者による文化的な交流も盛んに行われ，国際舞台での活躍を目指す若手の研究者にとって貴重な催事であった。今年から、昨年ご退官された水崎先生の後任として流体科学研究所の丸田薫教授も加わったことで本シンポジウムの枠組みを拡大しており、今後のさらなる発展が期待される。

シンポジウム参加者の集合写真

【参加者の所感】

所属：東北大学大学院　環境科学研究科　川田研究室

学年：博士課程後期１年

氏名：木村　勇太

所感：2012 年 11 月 7 日から 9 日まで韓国ソウル市にあるソウル国立大学で開催された、第 13 回韓日学生シンポジウムに参加し,ポスター発表を行った。私は今回で本シンポジウムには３回目の参加となったが、韓国の学生と質問・議論を活発に交わすことができ、これまでで最も積極的にシンポジウムに関わることができたと感じている。また Closing address において、私は来年日本で開催される第１４回日韓学生シンポジウムの日本側オーガナイザーに指名された。本シンポジウムのコンセプトは第 1 回から一貫して、「学生の、学生による、学生のためのシンポジウム」であり、学生が主体的・積極的にシンポジウムに参加することが重要となる。来年はオーガーナイザーとして、学生が積極的にシンポジウムに参加できるような、最高の環境を作っていきたいと思う。

---

Affiliation: Kawada Lab.

Year: Ph.D. 1.

Name: Hyun-Jin Hong

Report of my impression:  Japan-Korea symposium was 2^nd time to me but it was 1^st time to presentation in this symposium. This symposium was really motivated to me for 2years kind of research attitude, knowledge and so on. I was impressed earnest atmosphere that all students concentrated to speaker’s presentation and gave deeply questions before 2years. I expected this symposium also be a time to exchange our thinking and knowledge and it was. I had a presentation for 5mins to introduce my poster but I was little nervous although it was just poster. Actually, SOFCs fields were not familiar to me compare with other students because it is new fields that I try to first time from my Ph.D. course. So I hope I want to learn more detail part of SOFCs system and it was done. I learn many valuable thins such as how to approach the research, attitude about as a researcher and so on from Japan-Korea symposium. I hope I will have chance to give a presentation also using high quality research data in next Japan-Korea symposium in Japan.

---

所属：東北大学大学院環境科学研究科 川田研究室

学年：博士課程後期１年

氏名：リヤン　アクマド　ブディマン

所感：The 13^th Japan Korea Student Symposium in Seoul National University was my 2^nd  chance for me attending this symposium. I really appreciate for the effort from organizer to hold this symposium. It was really interesting to join this symposium, because not only sharing knowledge, but also I’ve got many friends. Sometimes we too focus to our study or research, but when it comes into this kind of large symposium, it gives us another

knowledge form different field of study. It is very good because broadening our knowledge. I got a lot of time for discussing my study during the symposium, lot of students ask many thing on my study, I hope the their question and advice will give another insight on my study, and also I hope what I've got from this symposium will be useful in my future study or research. In other side, it was fun to have many new friends, and I hope this symposium will continues in the future. Thank you to hold this symposium.

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：博士課程前期２年

氏名：白井　良和

所感：初めての日韓学生シンポジウムへの参加であった昨年は、満足なコミュニケーションをとれず、自らの英語力不足を痛感することとなりました。そこで、今回は、発表資料の構成を工夫した上で、英語での発表練習に力を入れました。その成果もあり、比較的満足に発表をこなすことができたとともに、ディスカッションにより、自らの研究の新しい課題を発見することができました。また、他の学生の発表を聴講することで、材料の物性やその評価に関する多くの知見が得られました。一方、学生間の交流も大変充実していました。あらゆる場面で、韓国の学生は私たちに親切にして下さり、休憩や食事の時間には、互いの国の衣・食・住の文化、大学生活、卒業後の進路などについて議論しました。また、私たちは、事前に練習した韓国のダンスを披露することもできました。今後も継続して、隣国である韓国の文化を学び、親密な関係を築いていきたいと感じました。シンポジウム全体を通して、研究に関する知識・スキルを獲得し、日本と韓国の文化を理解し合うことができたといえます。そして、英語のコミュニケーション面での自らの成長を実感することができました。最後になりましたが、このような機会を設けてくださった両国の関係者の皆様に、深く感謝いたします。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：博士課程前期２年

氏名：松尾宙晃

所感：今回の日韓ゼミは私にとって 2 回目の参加となり、初めての国外でのオーラル発表となりました。昨年の日本で行われた日韓ゼミでは質疑応答の際に質問者の意図を理解できず、その場で答えることができませんでした。そのため、今回は質疑応答をしっかり こなせるようにしようと、昨年質問された部分を中心に補足資料の準備を行い発表にのぞませていただきました。その結果、今回の発表ではその場で質問者と議 論を重ねることができました。

　さらに今回の日韓ゼミではこちらから質問し、議論するということもできました。前回はひたすら受け身の姿勢で発表を聞き、発表に対してあまり疑問を持つ ことをしませんでした。しかし、今回はひとりひとりの発表を能動的に聞き、積極的に議論に参加することができました。これらの経験は私にとってかけがえの ないものになったと思います。

今回、このような機会を設けてくださいました先生方、オーガナイザーの方、経済的支援をしてくださいました方々など、関係者の皆様に深く感謝致します。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：博士課程前期２年

氏名：藤巻 義信

所 感:2012 年 11 月 7 日から 9 日の 3 日間にわたり､13th Korea-Japan students' symposium が開催されました。慣れた環境から離れての学会発表であることに加え、発表および質疑応答を全て英語で行わなくてはならず、これは私にとっての大きなハードルとでした。しかし昨年のシンポジウムでは積極的な発言が出来なかった反省から、韓国学生の発表にも積極的に質問をぶつけるように心がけ、議論に積極的に参加する姿勢をもつことで、この障害を克服することができたと感じています。さらに今回は chairman も初めて経験し、司会進行の技術も習得できました。本シンポジウムにおいて昨年と異なる点として、博士課程後期の学生を対象としたポスター発表があります。ポスター発表ならではの気軽に質問できる環境が功を奏し、基本的な内容から深い内容まで幅広く学生同士忌憚のない活発な議論ができていたと思います。

本シンポジウムを通して得た貴重な経験、そして自分の成長に必要な課題が明らかになったことが一番の成果です。閉会時には日本で予定される来年のシンポジウムの開催が発表されました。来年以降も引き継がれていく本シンポジウムで、今回見つけた課題を克服するとともに、より大きく有意義なものに発展していくよう願いたいと思います。

最後に本シンポジウムの運営にご協力いただいた全ての先生方、スタッフ各位、そして参加研究室の学生各位に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：M1

氏名：工藤ほなみ

所感：私にとって今回の日韓ゼミ参加は 2 回目でした。前回は学部生でまだ研究内容も充実しておらず、質疑応答も上手くできませんでしたが、今回は何とか答えることができセッションの後にも時間が足りなくてできなかったディスカッションを活発に行うことができました。また、食事の席やエクスカージョンでも韓国側の学生とたくさん交流を深めることができました。しかし、発表や英語に課題も多く見つかったので、もっと練習しなければならないと思いました。このような機会を与えてくださったこと、もてなしてくださった韓国側の学生に感謝します。

来年のシンポジウムが今から待ち遠しいです。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：博士課程前期１年

氏名：遠藤　靖大

所感：　私は今回初めて日韓学生シンポジウムに参加させて頂きました。英語での発表や質疑応答は私にとって初めての経験であり、大変苦心しましたが、今後自分の英語力を磨いていきたいと強く感じ、大変よい経験になりました。また、韓国の学生との交流を通して、自分の考えを拙いながらも英語で伝える事の楽しさを知る事ができました。来年のシンポジウムをより楽しく有意義に過ごす為にも、自分の研究への理解と英語力を深めていきたいです。さらには、来年は仙台開催なので運営面でも力になれるよう頑張りたいと思います。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：M1

氏名：鈴木康太

所感：今回初めて日韓学生シンポジウムに参加させていただきました。このような学生主体であるシンポジウムは初めての経験でしたが，学生主体であるために普段より積極的に質問等ができた貴重な機会でした。また，同分野の研究をされている韓国の学生とは，今後の研究に関わる議論を深く交わすことができ，非常に有意義な時間を過ごすことができたと感じます。しかし，３日間を通じて，英語でのコミュニケーション能力の違いを痛感もしました。韓国の学生の英語能力についていけず，ディスカッションを一時中断してしまうことや，自分の意見を上手く表現できない場面が多々ありました。今回の刺激を上手く今後の研究生活に繋げていきたいと感じます。最後になりましたが，今回のシンポジウムを行うにあたりご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室

学年：　修士１年

氏名：　渦巻裕也

所感：　2012 年 11/7-9 にかけて The 13th Korea-Japan Students' Symposium が Seoul National University で開催されました。私は今年が初参加でした。このシンポジウムは学生主体であるゆえ、発表の準備段階から学生間での議論が活発に行われました。普段ゼミにおいて諸先輩方の発表は聴講していたものの、シンポジウムに向けた発表練習に一緒に参加させていただいたことは、発表の流れはもちろん、論理の展開の仕方や相手への見せ方など改めて学ぶことがとても多く勉強になりました。シンポジウムにおいても両国の学生間で活発に議論が行われました。私自身も韓国の学生といくつか研究について話す機会があり、英語で伝えることの難しさを痛感しました。話のなかで自分の研究を評価していただけたことは自信に繋げ、さらに、発表の際に伝わっていたことと、そうでないことを知ることができたので、このような反省点を今後に生かしていきたと思います。また、このシンポジウムにおいてはリチウムイオン電池やカーボンナノチューブ、地下空間設計など多岐にわたる研究分野に触れることができたので、自らの視野を広げる上でとても有意義な経験となりました。シンポジウム後の学生間の交流では、たくさんの素晴らしい思い出を作ることができました。韓国と日本における文化の違いを楽しみながら、親睦を深めら

れたことはこのシンポジウムの醍醐味だと感じました。来年仙台で開かれるシンポジウムが今から楽しみであり、その分さらに研究に励まなくてはならないと思いました。
オーガナイザー及びこのような機会を与えてくださった先生方、その他学生、関係者の方々に深く感謝致します。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　川田研究室
学年：工学部 4 年
氏名：佐藤　宏樹
所感：　私は今回初めて日韓学生シンポジウムに参加させていただきました。発表者の方々は発表内容、プレゼンテーションのスキル、英語力等どれをとっても素晴らしく、自分もあのようになりたいと強く思いました。自分の発表では準備不足が原因で失敗をしてしまったのですが、それもまた良い教訓と なりました。質疑応答 では英語力の足りなさゆえに伝えたいことがうまく伝わらないこともあり、学会発表でも使えるレベルの高い英語スキルを磨かなくてはならないと痛感しまし た。また、韓国の学生との交流会は、異なる文化を知る良い機会であったと同時に、同年代の学生と交流できる非常に楽しい時間でした。
　来年もこの日韓学生シンポジウムに参加させていただけるのであれば、それまでに種々のスキルを磨き、より有意義なものにしたいと思います。このような素晴らしい経験の場を与えてくださった日韓両国の先生方、学 生の皆様、本当にありがとうございました。

---

所属：東北大学　多元物質科学研究所　雨澤研究室
学年：D2
氏名：王芳
所 感：　It is a pleasure to be present at the 13th Japan-Korea Students' Symposium. Originally, solid state ionic has been the key themes for this symposium. Based on a profound friendship and good relations of cooperation between Korean and Japanese researchers and young promising students, this students' symposium is for more than 15 years now. I was fortunate to attend this year's symposium and meet many young excellent students from Korea and Japan. And I also was very lucky to have this very valuable opportunity to listen the fascinating lectures given by the academic experts of world-class scientific and credibility in my research area in this symposium. Participate this event had a significant impact on my academic horizon and promote international friendship with my new friends. This process was effective to develop my sense of team work, open sense of cooperation and exchange as well as the increasing in cultural exchange. I am looking forward to the next Japan-Korea Students' Symposium in Sendai.

---

所属：東北大学　多元物質科学研究所　雨澤研究室
学年：工学部 4 年
氏名：大池　諒

所感：　今回が初めての日韓ゼミであり、また初めての発表の場でもありました。発表資料を作る際に自分の研究内容に対する理解度、発表能力が 低いことが露呈されたのですが、先生方のサポートのおかげで無事に発表を終えることができました。しかし私は英語が苦手 であり、質疑応答や他 の人の発表内容を理解することが難しかったため、これからは研究をするだけでなく、英語能力も鍛えていき、ディスカッションに積極的に参加していきたいと 思います。
最後にはなりましたが、今回の日韓ゼミを行うにあたりご尽力していただいたソウル大学、東北大学、並びに各関係者の皆さんに御礼申し上 げます。

---

所属：東北大学　多元物質科学研究所　雨澤研究室
学年：工学部機械知能航空工学科 4 年
氏名：　渡邊 俊樹
所感：　私に とって今回が初めての日韓学生シンポジウムであり、初めての学外での発表であり、初めての英語での発表でした。全てが新鮮で、要項編集か ら発表練習までの準備段階も含めて非常に充実した時間を過ごすことができました。自分の研究について発表するに当たり、先生方による要項添削や発表練習のご指導により、自分自身曖昧だった点を顧みることができ、より理解が深まったように思います。先輩方の発表を聞いて、当 たり前かもしれませんが自分の知識量の少なさを実感し、韓国の学生とのコミュニケーションでは自分の英語力のなさを痛感し、学業に対する モチベーションが高まりました。1 年後や 2 年後にまた参加させていただける機会があれば、今回できなかったこと、 苦労したことを少しでも多く達成できるように今後も学業に勤しんでいきたいと思います。最後にこのような貴重な機会を与えて下さった先生 方、また、シンポジウムの運営に関わっていただいた全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

---

所属：東北大学　工学研究科　湯上/井口研究室
学年：博士課程前期 1 年
氏名：柴田 佳和
所感：この度は日韓学生シンポジウムに参加させて頂き、初めて英語でのプレゼンテーションを行ってまいりました。全てが初めての事ばかりで、発表に至るまでは不安で仕方ありませんでしたが、それに対する挑戦、そして乗り越えたと言う達成感は新たな自信をもたらしてくれたと感じております。韓国の学生の方々、及び他研究室との交流は、研究の議論といった単なる学術的な内容にとどまらず、英語でのコミュニケーションスキルの上達、異文化の理解など、普段では得ることの出来ない大変貴重な経験だったと考えております。今回このような素晴らしいシンポジウムを企画して下さった関係者諸氏に感謝申し上げます。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　橋田研究室
学年：博士課程後期 2 年
氏名：鈴木杏奈

所感：今回で 3 回目の参加となる本シンポジウムでは、日本側のオーガナイザーを務めさせていただきました。韓国側のオーガナイザーが中心的に運営・進行を行ってくれた他、参加者のご協力やこれまでのシンポジウムのノウハウの蓄積により、スムーズに会の進行をすることができました。また、諸先生方をはじめ多くの人からご支援していただきながら本シンポジウムが開催されていることを実感しました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

毎年、韓国学生の議論の質の高さに感銘を受けるものの、今年は日本から参加した 3 名の学部生が初めての発表にもかかわらず堂々と議論を行っており、非常に刺激を受けました。国際社会で生きていくためには、自分の意見をしっかりと主張できることが重要です。失敗を恐れることなく、早い時期からそういったチャンスに挑めるのは、国際的に活躍する人材育成に有効であると考えます。また私自身、学生のうちからシンポジウムの運営に携われたことで組織をまとめる力を養うことができたと思います。

改めまして、今回のシンポジウムでは貴重な経験をさせていただきありがとうございました。日頃の研究活動や次の活動に活かしていきたいと考えています。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　橋田研究室

学年：博士課程後期 1 年

氏名：白須圭一

所感：2010 年に初めて参加し，今回で 3 回目の日韓シンポジウムとなりました．これまでに数回国際会議に参加させて頂いていましたが，ポスターセッション前のショートプレゼンテーションは経験がなかったので，スライドの作成や当日の発表は今後の経験に生かせると思っており，今後のシンポジウムも大変有意義でした．普段の研究室生活では英語でのコミュニケーションをする機会が多くないこともあり，韓国の学生と積極的にコミュニケーションをとれた点も良かったところです．これまで発表の大部分が燃料電池に関連する研究でしたが，徐々に燃料電池にとらわれない異なる分野の発表も多くなっていると思います．これから益々多岐にわたる分野から積極的にシンポジウムに参加してもらい，参加者により多くの知見や情報の提供，交換ができる機会になれば良いのではないかと期待しております．オーガナイザー，諸先生方ならびに会場準備や世話役を務めて下さった韓国の学生の方々に感謝申しあげます．

---

所属：東北大学　環境科学研究科　橋田研究室

学年：博士課程前期二年

氏名：蒔田浩士

所感：今回のような貴重な体験が出来たことは，今後の研究態度に大きく生かされると感じました．ソウル大学の学生は非常に勉強熱心であり，当然英語での会話能力を含め，研究分野への理解，他分野への好奇心等が高かったように思います．また，その質疑の質の高さも評価されるべきものでした．ご多忙中にもかかわらず，支援して下さったオーガナイザー及びその他の学生、先生方、関係者の方々に心より感謝致します。

---

所属：東北大学　環境科学研究科　橋田研究室
学年：博士課程前期１年
氏名：野坂　陽
所感：今回、初めて日韓シンポジウムに参加させて頂きました。私が専門とする研究分野は他の参加者とは大きく異なっており、さらには英語でのプレゼンテーション、質疑応答はいずれも初めての経験であったため、自分の研究内容を思うように伝えることができなかったことが心残りです。一方で他の学生、特にソウル大学の学生は非常にレベルが高く、自分の英語スキルの低さをひしひしと痛感しました。今回のシンポジウムを機に英語に対する意識を改め、英語と積極的に向き合っていきたいと思います。このような貴重な機会を与えてくださったすべての関係者の皆様方に深く感謝いたします。